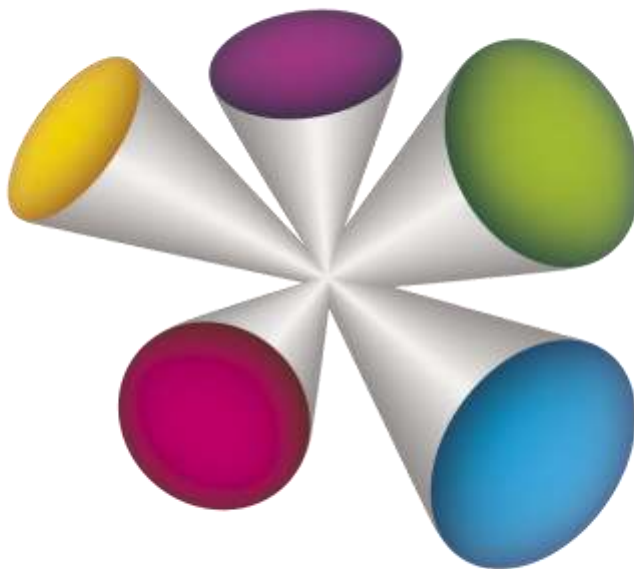


# 第3四半期連結決算説明

第28期(2011年3月期)

株式会社ワコム  
(東証1部:6727)



# 第3四半期(2010年4-12月期) 連結決算のまとめ

世界経済は新興地域の成長が継続する一方、先進地域の回復ペースは依然として緩慢、円高も進行。そのような事業環境のなか、クリスマス商戦での堅調なタブレットの売上拡大とコンポーネントのマルチタッチセンサーの量産化、コスト管理などにより前年同期比で増収増益となった。

売上高は前年同期比	7.0%増
営業利益は前年同期比	15.9%増
経常利益は前年同期比	19.6%増
当期純利益は前年同期比	13.1%増

# 連結損益計算書

(単位:百万円)

	第27期 3Q	第28期 3Q	対前年同期比較	
	09年4-12月期	10年4-12月期	増減額	増減率
売上高	23,568	25,228	1,660	7.0%
売上総利益	11,876	11,911	35	0.3%
売上総利益率	50.4%	47.2%		
営業利益	2,256	2,614	358	15.9%
営業利益率	9.6%	10.4%		
経常利益	2,337	2,795	458	19.6%
当期純利益	1,533	1,734	201	13.1%

- 3Q平均為替レート：第27期3Q 1ドル 93.73円、1ユーロ132.69円  
第28期3Q 1ドル 86.86円、1ユーロ113.49円

為替変動影響(円高)：売上高 19.8億円減  
営業利益 7.5億円減

# 連結事業別セグメント

(単位:百万円)

	第27期 3Q	第28期 3Q	対前年同期比較	
	09年4-12月期	10年4-12月期	増減額	増減率
売上高	23,568	25,228	1,660	7.0%
タブレット事業	19,747	20,142	395	2.0%
コンポーネント事業	3,468	4,761	1,293	37.3%
その他の事業	353	325	△28	△7.9%
営業利益	2,256	2,614	358	15.9%
タブレット事業	-	4,389	-	-
コンポーネント事業	-	△136	-	-
その他の事業	-	△159	-	-
コーポレート他	-	△1,479	-	-
営業利益率	9.6%	10.4%		

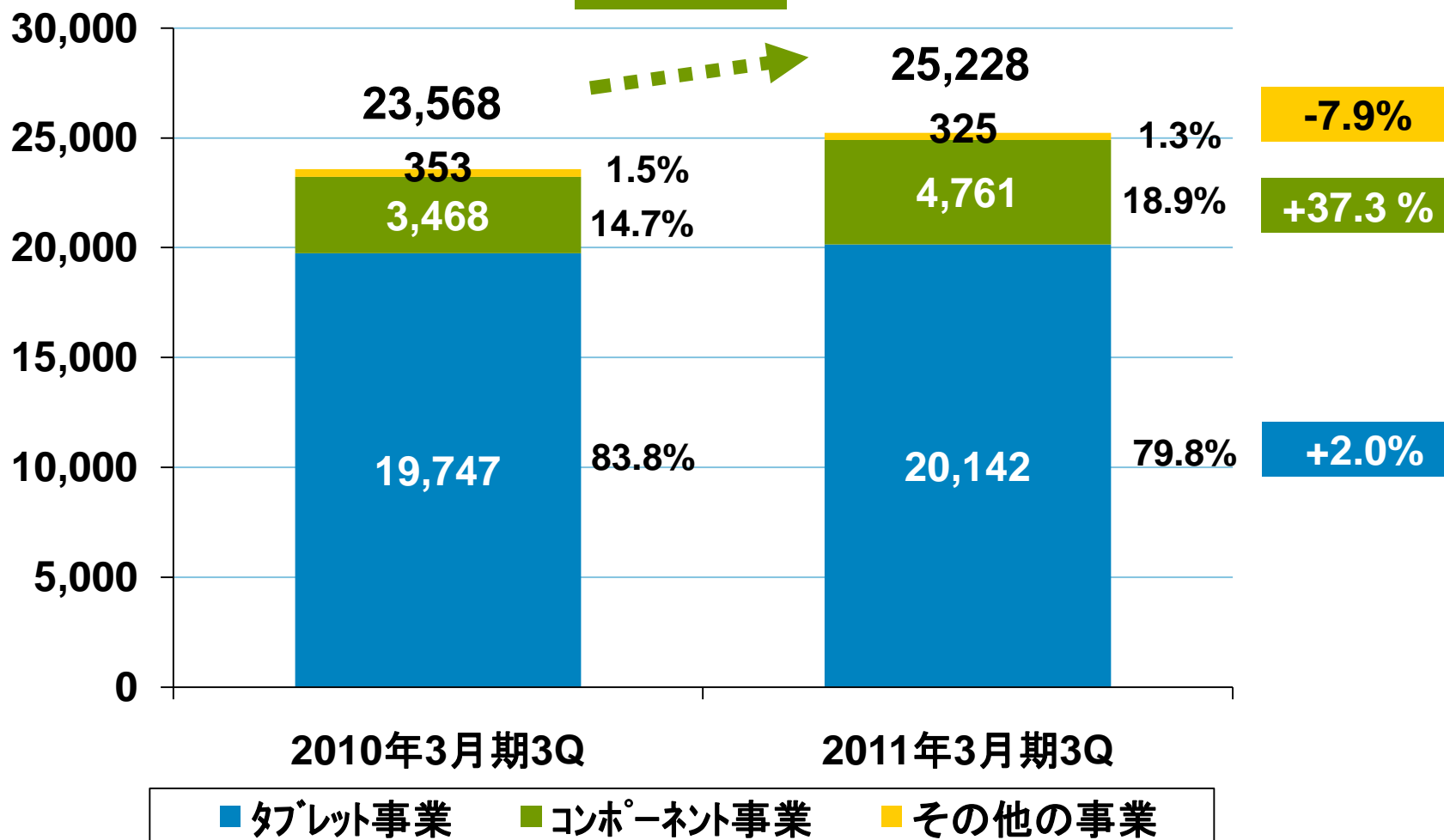
(注)28期よりマネジメント・アプローチの適用に伴い、報告セグメントをタブレット事業、コンポーネント事業及びその他の事業の3事業に区分しています。

# 連結売上高比較

(単位:百万円)

+ 7.0%

為替影響額(-19.8億円 -8.4%相当)\*

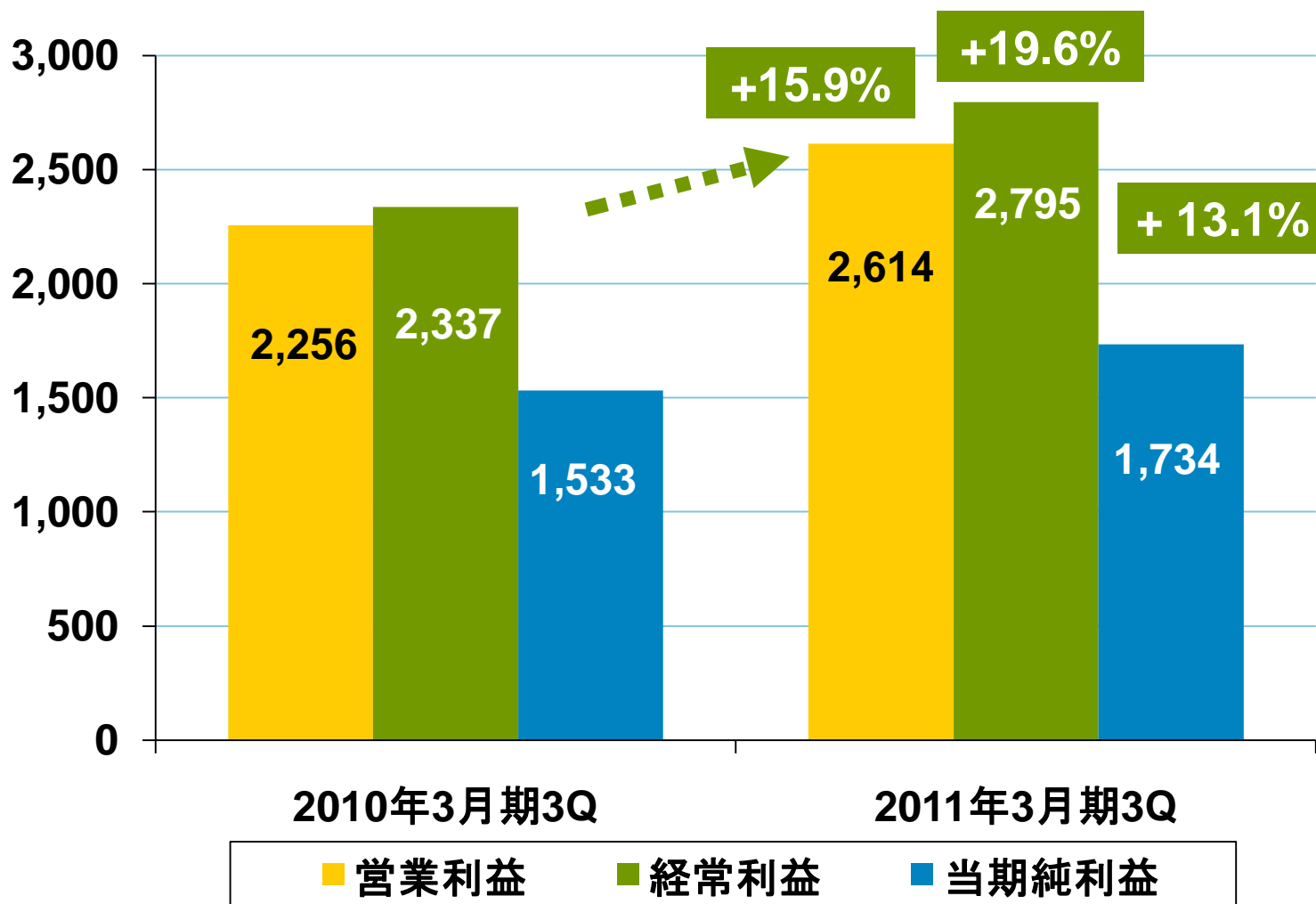


\*為替影響除く、概算売上高 27,208

# 連結利益比較

(單位: 百万円)

營業利益 為替影響額  
(-7.5億円 -33.4%相当)\*



\*為替影響除く、概算營業利益 3,364

# 販管費及び一般管理費の主な内訳

(単位:百万円)

	第27期 3Q	第28期 3Q	対前年同期比較	
	09年4-12月期	10年4-12月期	増減額	増減率
人件費	3,838	3,474	△364	△9.5%
研究開発費	1,227	919	△309	△25.1%
販促・広告宣伝費	1,545	1,517	△29	△1.9%
その他	3,009	3,387	378	12.6%
販管費合計	9,620	9,297	△323	△3.4%
売上高販管費率	40.8%	36.9%		

## 主要増減項目

増加：航空運賃、減価償却費(グローバルSCMの稼働)など

減少：賞与引当金、新製品開発費(前期は新製品発表が集中)など

# 事業ハイライト -1

## タブレット事業

+ 2.0%

### プロフェッショナル タブレット + 0.4%

- ・ Intuos4が欧州で米国に迫る売上拡大を見せ、円高の影響を受けながらも前期並みを確保
- ・ 中国のグラフィックス市場の急速な成長により、アジア・オセアニアでの売上が伸長

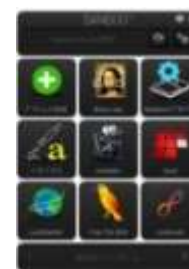
### コンシューマ タブレット + 4.1%

- ・ 円高の影響を受けながらも堅調に拡大
- ・ 現地通貨ベースでは、米国が好調、欧州も堅調を維持、中国が5割増を記録するなどアジアで大幅な増加
- ・ ペンやタッチの利用分野を拡大するアプリケーション「Bamboo Dock & Mini」を無償ダウンロード提供
- ・ アプリケーションとともに国内外で高い評価を獲得 Plus X award、red dot award、グッドデザイン賞 Adobe Max、MIDAS award etc.

intuos.4



BAMBOO®



Bamboo  
Dock & Mini

WACOM®



# 事業ハイライト -2

## 液晶タブレット

+ 1.3%

- ・ グラフィックス向けCintiq 21UXは世界的に好評、高精細液晶の供給量は改善するも、上回る受注が継続
- ・ 汎用向けは、上期は米国の文教向けOEM案件が好調、下期は国内の医療向けが回復
- ・ サインタブレットの採用増、カラー液晶モデルも発売

Cintiq<sup>®</sup> 21UX  
interactive pen display



サイン  
タブレット  
STU-520



## コンポーネント事業

+37.3%

- ・ Windows PC向けマルチタッチセンサーの量産により大幅に売上増、HP、レノボ、東芝、富士通、パナソニックなども採用  
**(2011年3月期予定) マルチタッチ搭載PC量産モデル総数 20機種以上**
- ・ ペンコンポーネントのタブレット型情報端末への採用が拡大
- ・ 無制限マルチタッチ対応ICコントローラの販促を開始

参考値：コンポーネント品種別売上高構成比率

品種	ペンオンリー	タッチオンリー	ペン&タッチ
2010年12月期累計	4	1	5

# Wacom feel IT technologies

feel™

## コンポーネント採用機種例

Windows 7対応PC

Android対応タブレット  
Linux対応電子ブック



TouchSmart tm2

ThinkPad X201

Satellite M505

libretto W100



FMV-MT/E50



Let's note CF-C1



J3500



Eee Slate



enTourage

# 事業ハイライト -3

## その他の事業

- 7.9%

### 電気設計CAD (ECAD dio) + 11.8%



- ・ 主力商品 ECAD dio 2011を9月より発売し好評
- ・ 電気制御から機械装置のハーネス設計を統合したソリューションに進化
- ・ 産業用ロボットや製造装置系メーカーなど新規顧客の拡大を図る

### プロフェッショナルDJ機器 (Nextbeat) -118.5%

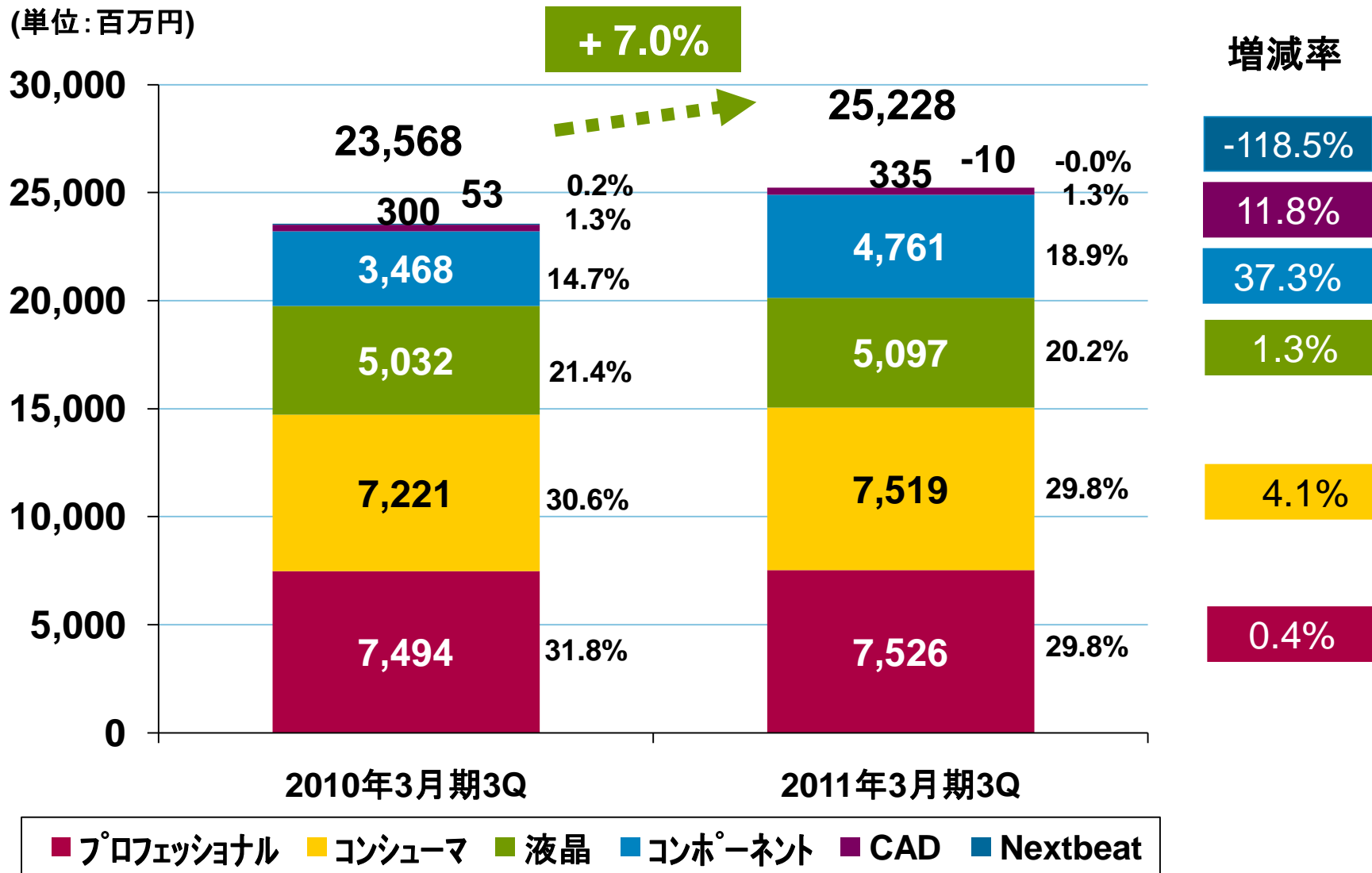
- ・ トップDJアーティストから高い評価を受けるも販売は苦戦
- ・ 欧州を中心にプロモーションを継続、新価格と機能追加で拡販を図る

## 管理部門

- ・ インド現地法人Wacom India, Pvt. Ltd. を設立(10月、ニューデリー)
- ・ グローバルSCMシステムが順調に稼働、パートナーとのリンクを拡大
- ・ グローバルERPシステムの整備を継続(来期上期に稼働予定)
- ・ 日独APAが成立(移転価格税制への対応)

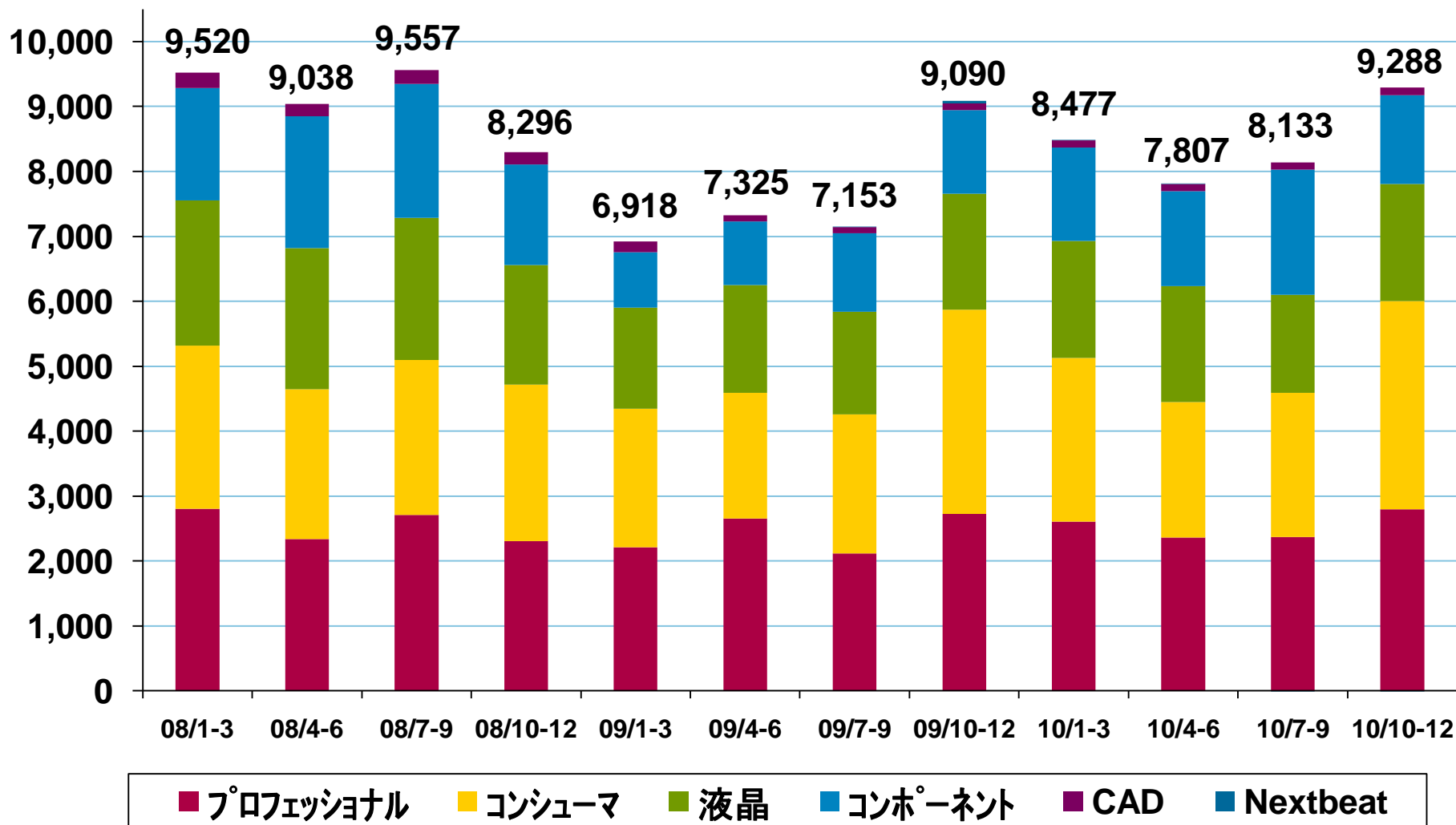
# 製品ライン別売上高

(単位:百万円)

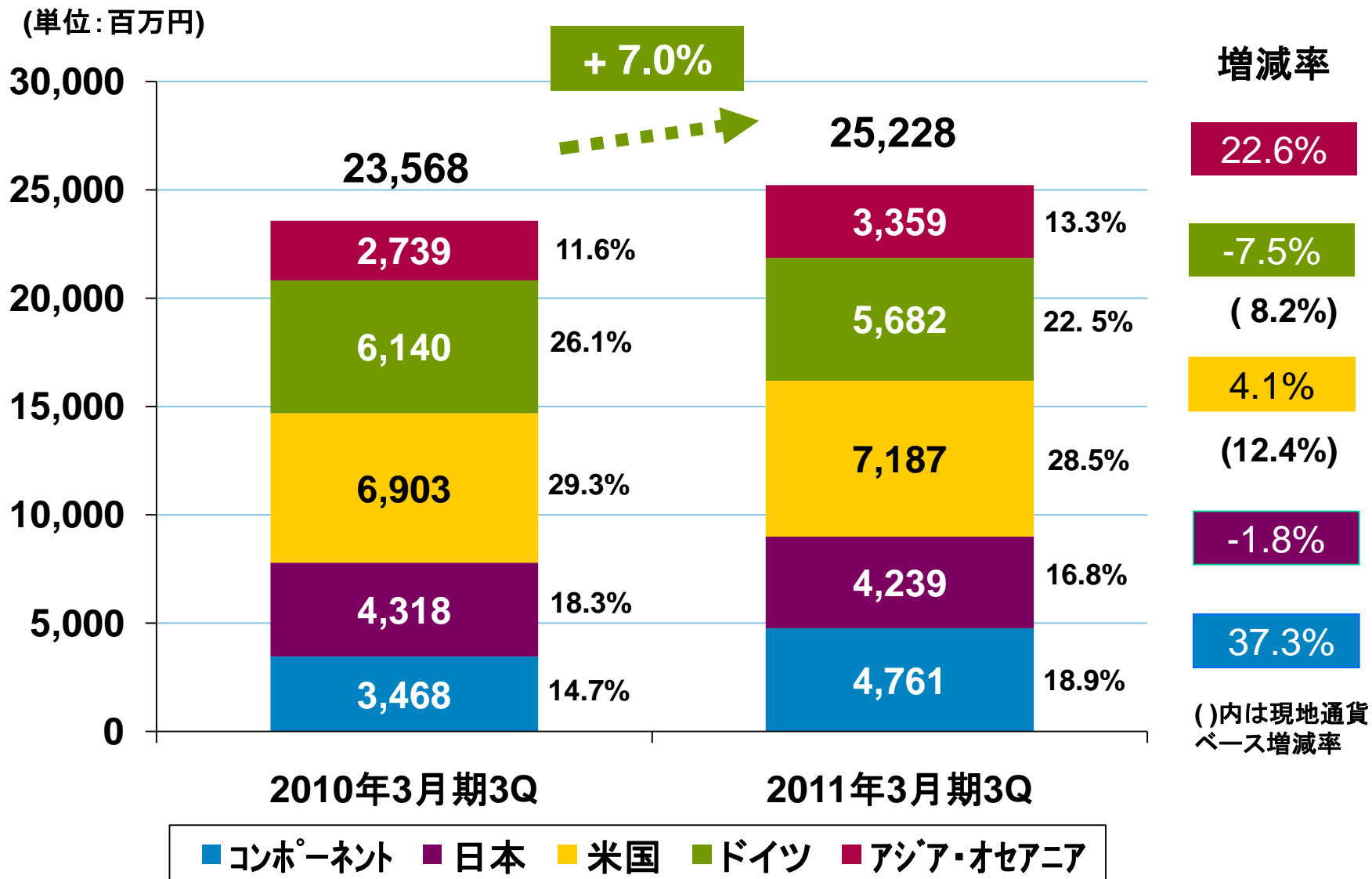


# 製品ライン別売上高推移

(単位:百万円)



# 所在地別売上高



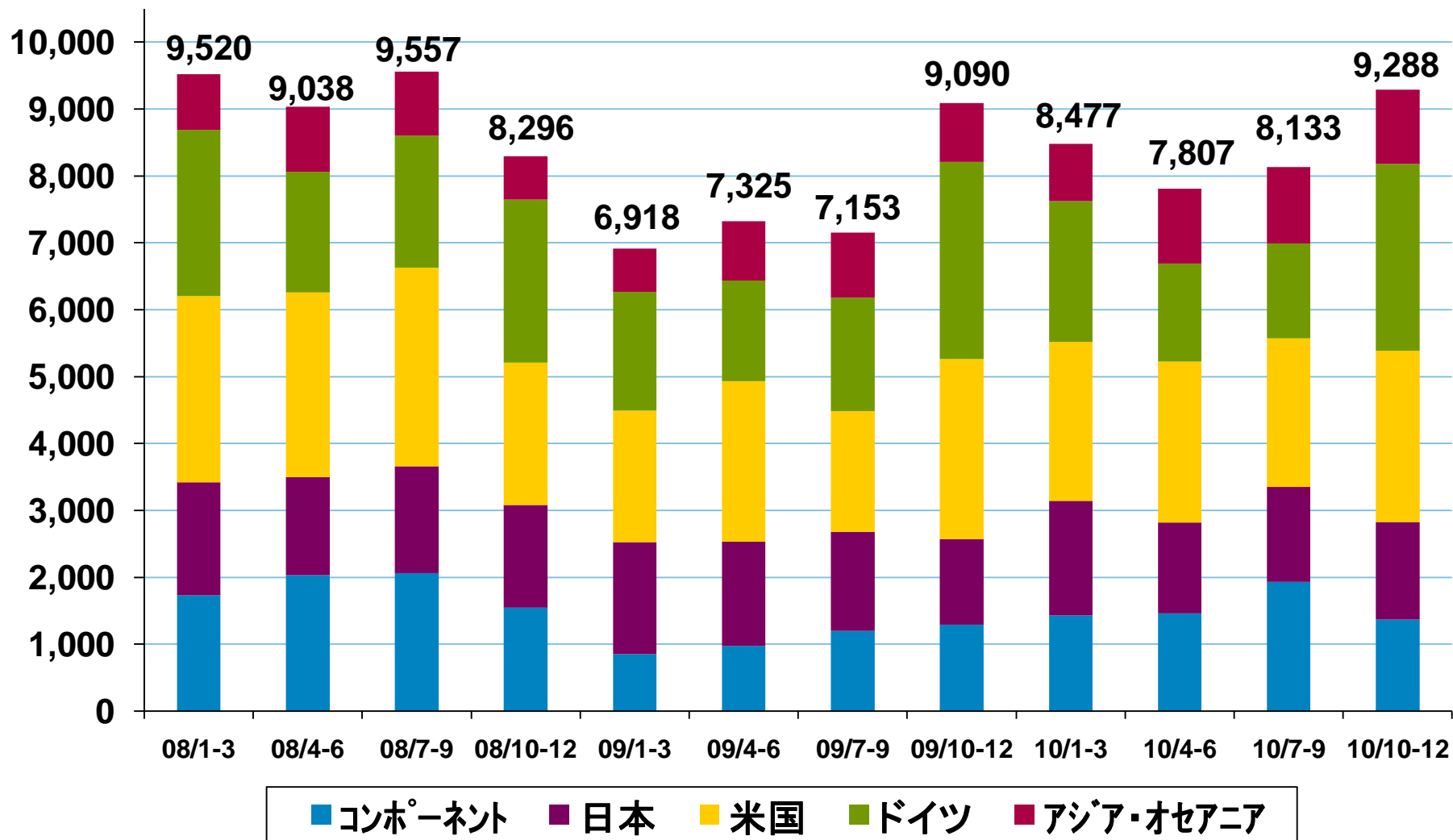
# 所在地別売上高

現地通貨ベースの売上高増減率  
(2011年3月期3Q累計 前年同期比)

- 米国(USD) **12.4%**
- 欧州(ユーロ) **8.2%**
- 中国(中国元) **40.9%**
- 韓国(韓国ウォン) **28.1%**
- 豪州(豪ドル) **- 6.9%**
- 香港(USD) **15.1%**
- シンガポール(USD) **32.6%**

# 所在地別売上高推移

(単位:百万円)





# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	10年3月末	10年12末	増減額
流動資産	22,824	21,715	△1,109
固定資産	5,375	5,598	222
資産合計	28,199	27,313	△886
流動負債	8,882	8,339	△543
固定負債	1,048	1,024	△24
負債合計	9,930	9,362	△567
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	18,270	17,950	△319
負債純資産合計	28,199	27,313	△886
自己資本比率	64.8%	65.7%	0.9%
一株当たり純資産 (単位:円)	45,467.55	44,673.37	△794.18

## 資産

(単位:百万円)

- ・ 現預金の減少  $\Delta 2,706$   
(主な要因)
  - ・ たな卸し資産や売掛金など一時的な運転資金の増加
  - ・ 法人税等の支払い増加
  - ・ 為替円高による目減り等
- ・ たな卸資産の増加 1,019
- ・ 売上債権の増加 730
- ・ 無形固定資産の増加 361

## 負債

- ・ 未払法人税の減少  $\Delta 474$
- ・ 賞与引当金の減少  $\Delta 178$

## 純資産

- ・ 利益剰余金の増加 529  
(3月末13,061  $\Rightarrow$  9月末13,590)

# 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	第27期 3Q	第28期 3Q	対前年 同期比較
	09年4-12 月期	10年4- 12月期	増減額
営業活動	2,433	△98	△2,531
投資活動	△405	△877	△472
財務活動	△1,199	△1,201	△2
現金に係る 換算差額	△184	△530	△346
現金増減額	646	△2,706	△3,351
現金期首残高	11,014	12,350	1,336
現金期末残高	11,660	9,644	△2,015

## 営業活動

(単位:百万円)

- ・ たな卸資産の増加 △1,335
- ・ 法人税等の支払額 △1,218
- ・ 売上債権の増加 △1,069
- ・ 税引等調整前当期純利益 2,720
- ・ 減価償却費 536
- ・ 仕入債務の増加 305

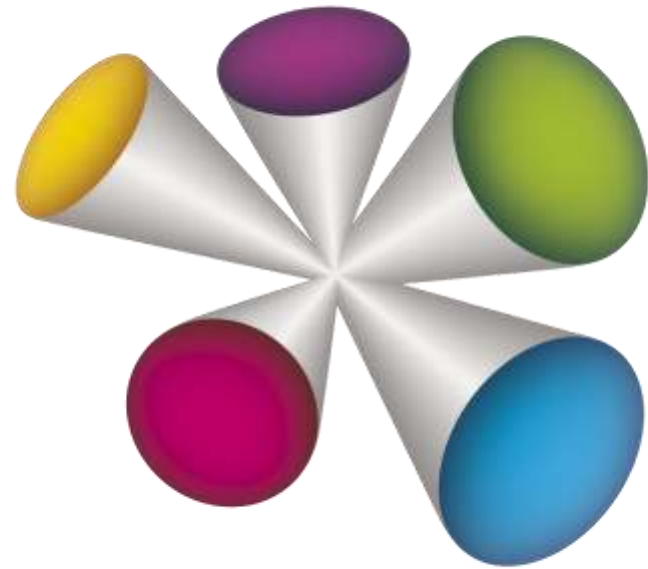
## 投資活動

- ・ 自社ソフトウェア取得 △560  
(グローバルERP等)
- ・ 有形固定資産取得 △321  
(金型等)

## 財務活動

- ・ 配当金支払額 △1,201

# 第28期(2011年3月期) 基本方針と主要施策



# 第28期(2011年3月期)の基本方針

## ● 事業環境

- 世界経済は回復期に入り、後半からの成長加速が予想される



**\* 先進地域の回復ペースは緩慢にとどまり、期初予想から大きく乖離  
さらに主要通貨に対する円高が急速に進行**

- 一方、経済成長とIT分野の拡大は先進地域から新興地域にシフトし、グローバル戦略と事業展開の重要性がさらに高まる。
- IT市場はスマートフォンやタブレット型情報端末等の新規プラットフォームの成長とユーザインターフェースの進化による構造変化が加速し、新たな事業機会が生まれる。
- そのなかでも、マルチタッチ(MFT)技術はIT市場に広範な影響を及ぼし、市場における優位性確保の重要な要素となる。

# 第28期(2011年3月期)の基本方針

## ● 当社の基本戦略

- 独自のユーザインターフェース技術を基盤としてタブレット分野のリーダーシップを強化し、新しい製品分野の確立に取り組む。
- ブランド戦略を強化し、コンシューマ市場を拡大する。
- また、中国・インド・南米などの新興地域での事業投資を強化する。
- テクノロジーソリューションをコンポーネントとして広くIT業界に提供することで更なる成長をめざす。
- グローバル市場における競争力を強化するため、組織のグローバル化を推進し、事業基盤の整備に引き続き取り組む。

# 第28期(2011年3月期)の主要施策

- **UIテクノロジーと製品セグメントにおけるリーダーシップの確立**  
次世代マルチタッチコントローラ(G8)によりMFT技術リーダーシップの確立  
次期主要製品ラインの開発と新規製品ラインの拡大
- **グローバルSCM機能の強化とコスト構造の改善**  
グローバルSCMシステムの運用による反応性・柔軟性の向上  
パートナーシップ拡大と中国、台湾のSCM/SQM機能の強化
- **新興市場開発投資の強化と基盤整備**  
アジア・パシフィック市場における事業成長のための投資  
インド、ラテンアメリカにおける事業基盤の強化
- **新マネジメントモデルとグローバル組織フレームワークの構築**  
グローバルマトリックス組織化による戦略性、スピード、調整力の強化  
JP-AP統括本部の新設による事業推進と管理機能強化
- **コーポレート機能の強化とグローバル統合の推進**  
グローバルERPやIFRSなどITインフラ投資と機能強化

# 連結損益業績予想の前提

- 為替想定レート的前提（第4四半期平均）

1 USD = 80円、1 EUR = 110円

（10月28日時点の前提から変更なし）

- 為替感応度予想（下期 6ヵ月分の影響額で表示）

中国元、韓国ウォン、豪ドルがドルリンクと想定

（単位：百万円）

通貨	USDドル	ユーロ
感応度の単位	1円	1円
売上高	120	35
営業利益	25	25

※ 各通貨が1円の円高の場合はマイナス、円安の場合はプラス

# 連結損益予想

(単位:百万円)

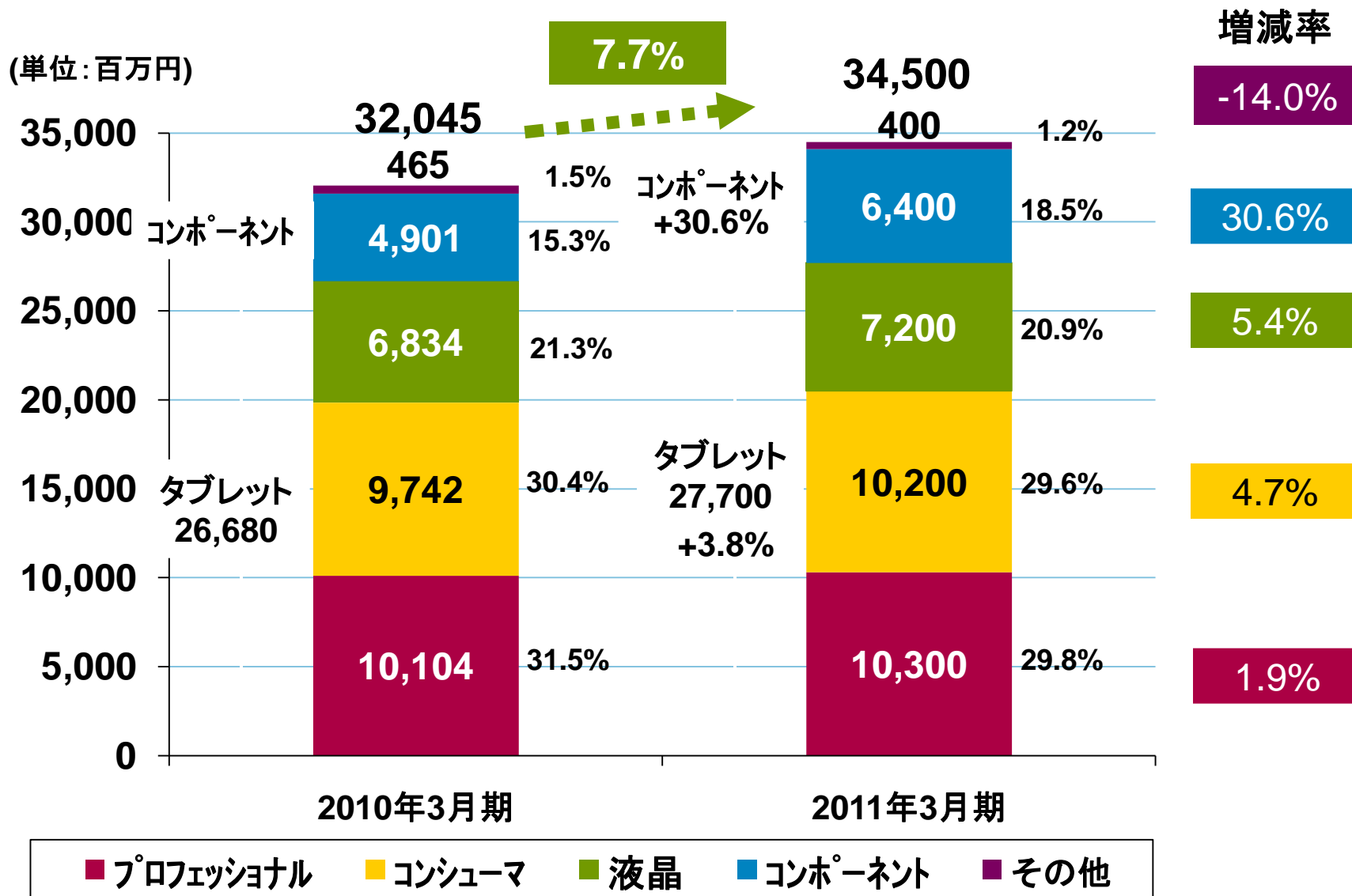
	第27期(実績)		第28期(予想)		対前期比較
	2010年3月期		2011年3月期		増減率
売上高	32,045		34,500		7.7%
営業利益	3,128	9.8%	3,250	9.4%	3.9%
経常利益	3,156	9.8%	3,350	9.7%	6.1%
当期純利益	1,968	6.1%	2,140	6.2%	8.7%

	第28期(予想)		第28期3Q(実績)		対予想比較
	2011年3月期		2010年4-12月期		進捗率
売上高	34,500		25,228		73.1%
営業利益	3,250	9.4%	2,614	10.4%	80.4%
経常利益	3,350	9.7%	2,795	11.1%	83.4%
当期純利益	2,140	6.2%	1,734	6.9%	81.0%

- 通期予想は、**2010年10月28日時点から変更なし**



# 連結損益予想 セグメント別売上高



# 第28期(2011年3月期)配当金見込み

- **配当の基本方針**

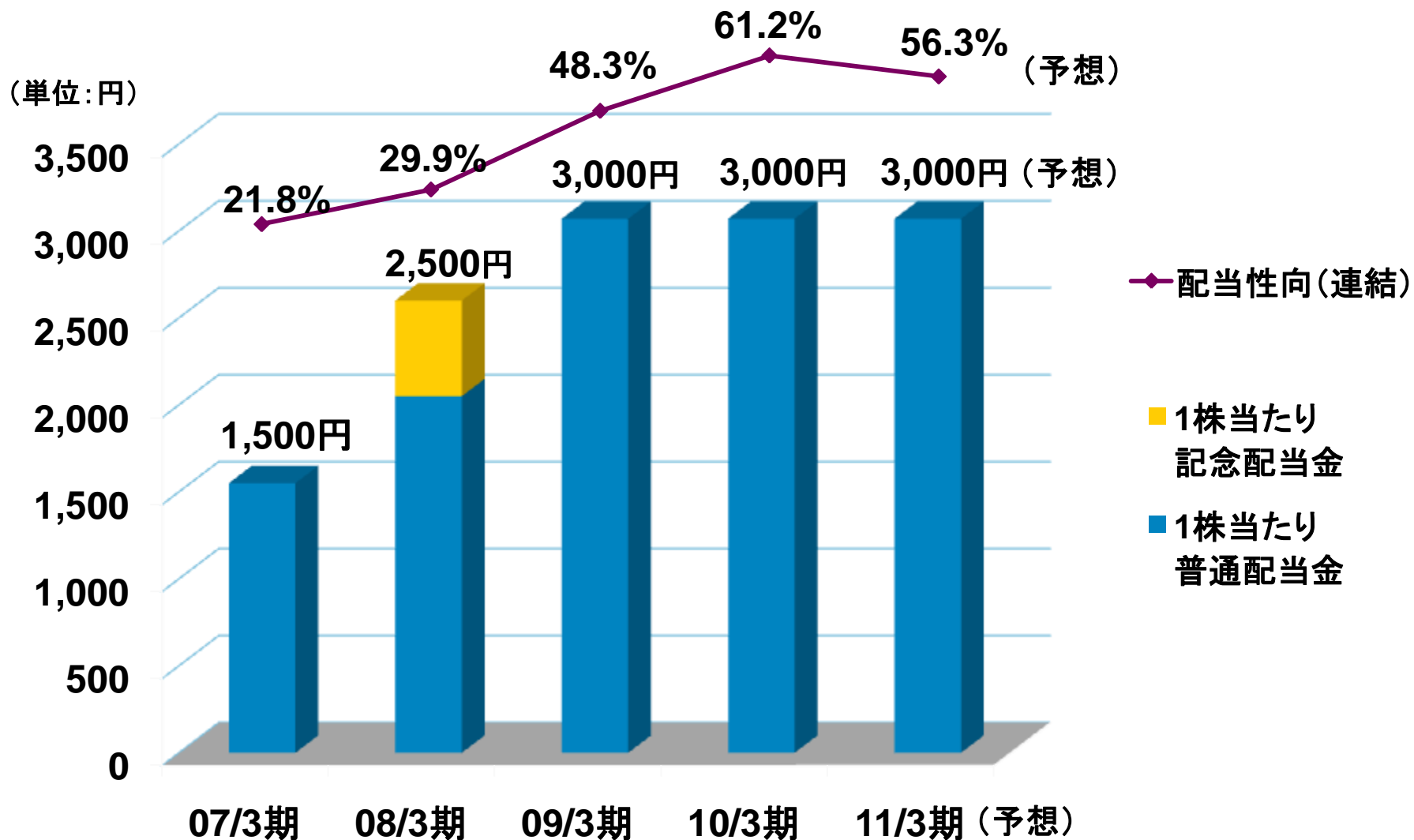
- 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続する
- 配当性向は連結ベースで30%以上を目標とし、継続的な向上を目指す

- **1株当たり配当金**

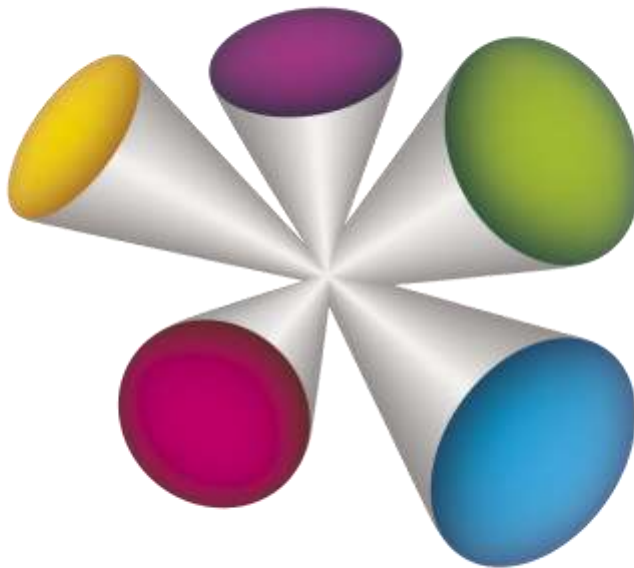
- 配当金 3,000円
- 配当性向 56.3%

(2009年3月期取得の自己株式 20,000株控除後)

# 一株当たり配当金推移

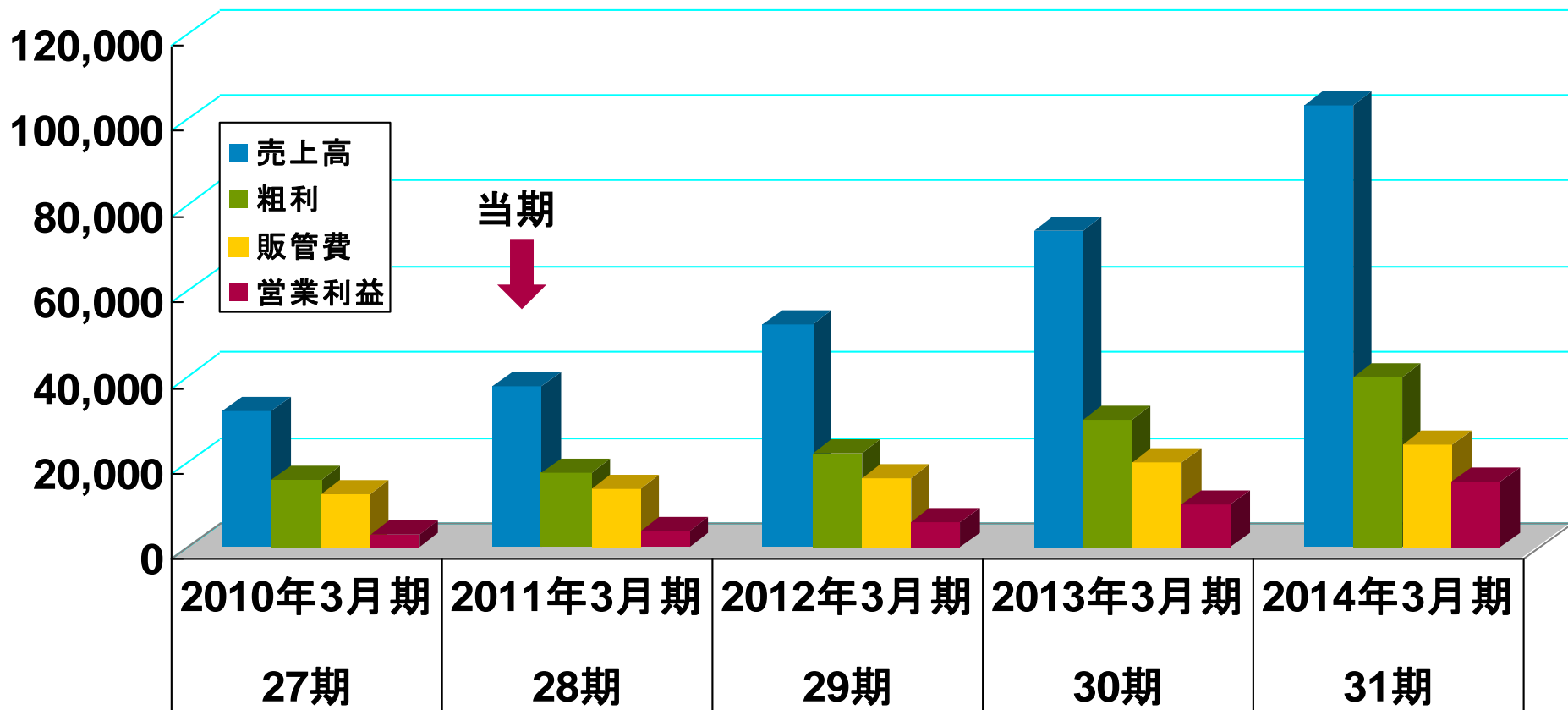


# 新中期経営計画



# 連結損益計画

(単位：百万円)



# 新中期計画の前提

- 世界経済は回復期から成長期へ、新興地域が成長を牽引
- デザインプロセスのデジタル化がグローバルに進行
- デジタルコンテンツ需要がグローバルに拡大
- IT分野はクラウド化とユーザインターフェースを中心に変革期へ
- スマートフォン、タブレット型情報端末、電子ブックなど新分野が拡大
- MFT(マルチフィンガータッチ)技術が製品カテゴリーを越えて普及
- 為替レート: 1USD=90円 1EUR=125円

# 成長戦略

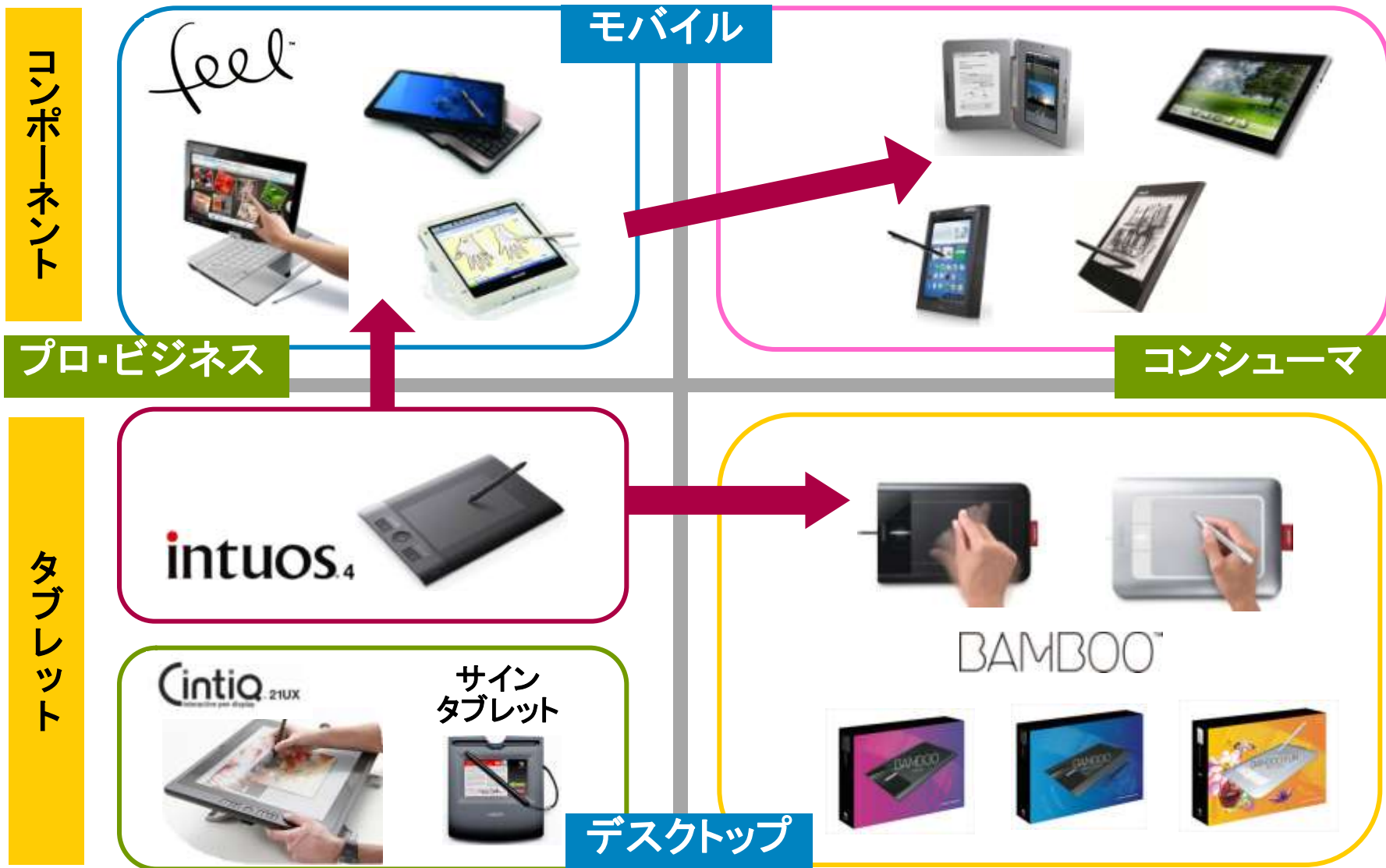
- **ユーザインターフェース技術におけるリーダーシップの確立**
  - マルチタッチ技術のリーダーシップ確立とIP(知的財産)化の推進
  - 新規UI技術の開発とパートナーシップ、M&AなどによるUI技術基盤拡大
- **タブレット事業におけるグローバルリーダーシップの強化**
  - タブレット製品ラインの拡大とグローバル戦略の推進
  - アジアおよびラテンアメリカ市場における事業成長
  - 製品企画・開発機能のグローバル化推進
  - Webを活用したユーザコミュニケーションの強化
  - グローバルなパートナーシップの強化
- **コンポーネント事業の新規分野への拡大と成長**
  - テクノロジーソリューション化の推進とPCカスタマーの拡大
  - タブレット型情報端末、電子書籍など新規利用分野の拡大
  - 生産パートナーの拡大とコスト競争力の強化

# 成長戦略

- **グローバルSCM(生産・物流)機能の強化とコスト競争力の強化**
  - ITシステムを活用した即応性の高いSCM機能の実現
  - 生産パートナーとの連携強化とコスト構造の改善
  - 中国および台湾におけるSCM機能の強化
- **新しいマネジメントモデルとグローバル組織の構築**
  - マトリックス(事業と地域)組織による戦略性強化、スピードの向上
  - コーポレート機能強化とグローバル統合の推進
  - グローバル連携を支えるグローバルIT基盤の整備
- **グローバルブランディング活動の推進**
  - 未来に向けて再創造し、変化をリードする企業文化の育成
  - ブランドコミュニケーション強化とコンシューマブランド化の推進

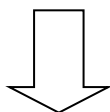


# プロダクトポートフォリオ



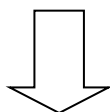
# 製品ライン戦略

- 表現力と生産性を高める先進的デザインツールをプロフェッショナルに
- 自然で使いやすいコンシューマ製品を広く一般ユーザに
- 液晶ペンタブレットでIT化とペーパーレス化を推進
- 高性能なテクノロジーソリューションをモバイル情報機器に



## キーテクノロジーの共通化

- ペン
- マルチタッチ
- ディスプレイ
- 新規UIテクノロジー



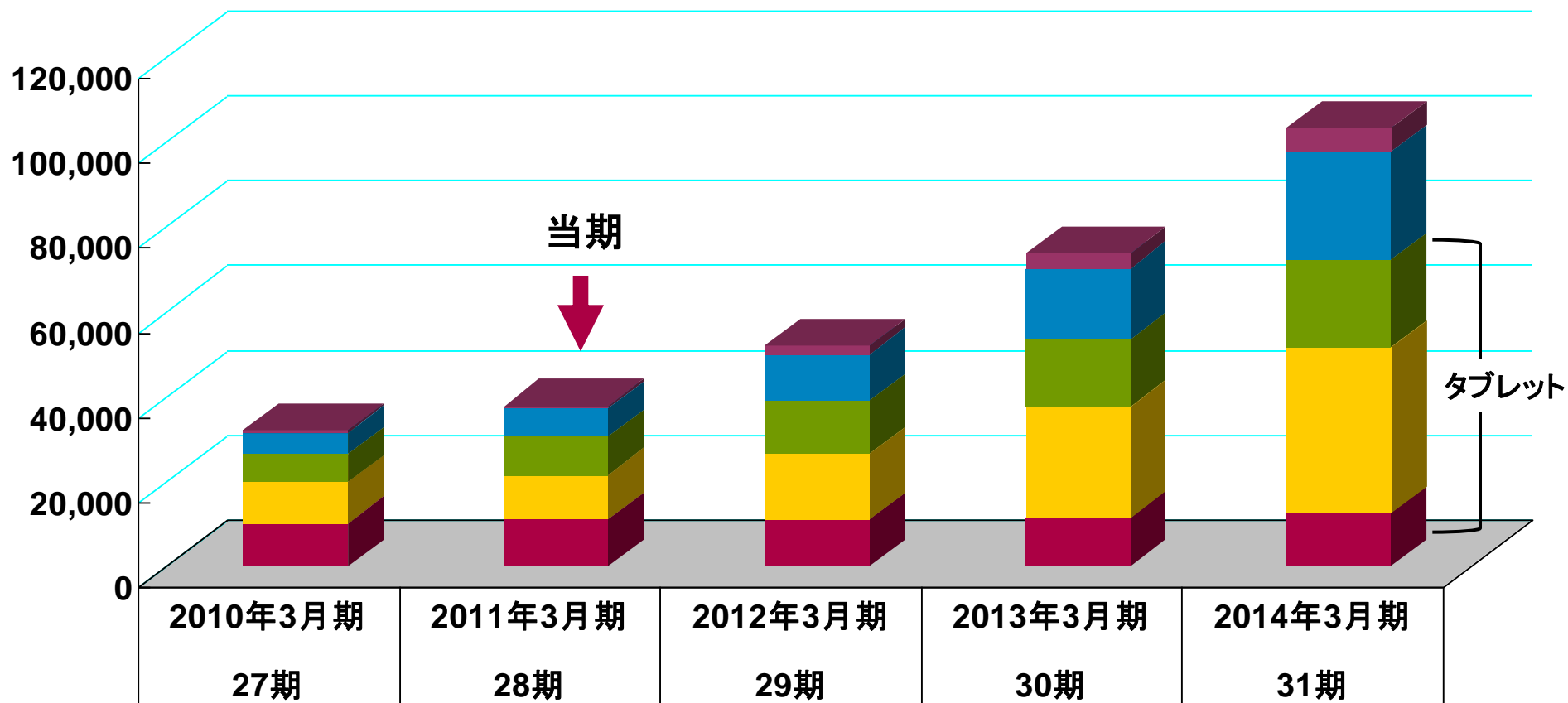
## 新しいデジタルペーパー時代の グローバルスタンダードへ

- 統合ソリューション化

*feel*

# 製品ライン別売上高

(単位：百万円)

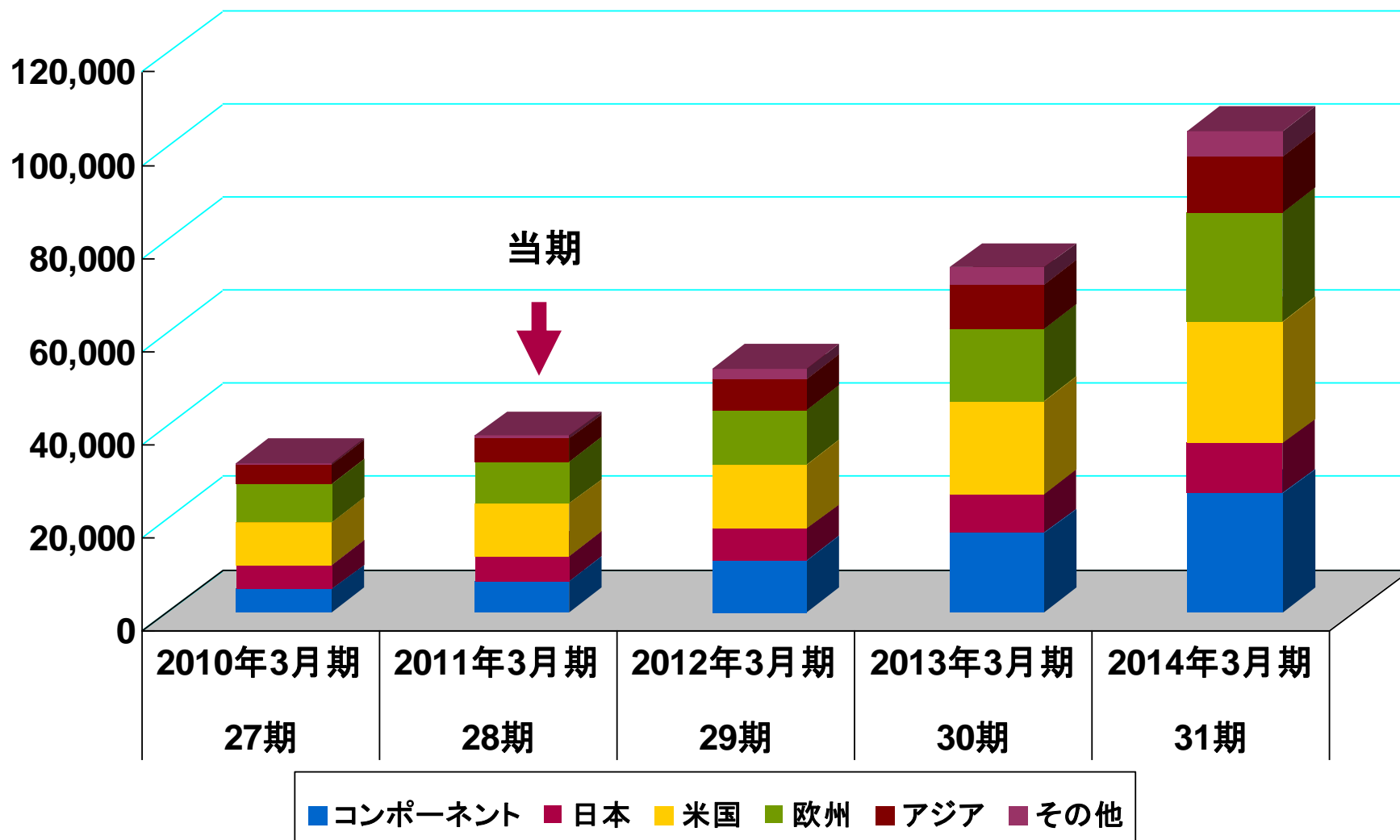


# グローバル戦略

- **先進主要地域におけるリーダーシップ強化**
  - プロフェッショナル市場でのパートナーシップ強化
  - ブランディングコミュニケーション強化とコンシューマ市場の拡大
  - 医療、教育、ペーパーレスオフィスなど業務系ソリューション分野の拡大
- **新興地域での事業拡大とブランド確立**
  - 中国、アジアパシフィック地域の事業成長の加速
  - インド、南米地域における事業インフラの整備
  - 新興地域におけるブランド認知の確立
- **グローバル最適地生産の追求**
  - 中国、台湾のSCM管理の現地化の推進
  - 現地生産パートナーとの連携の徹底
  - ITシステムを活用したグローバルSCMの構築
- **開発体制のグローバル化**
  - R&D拠点の拡大と人材の確保

# 所在地別売上高

(単位：百万円)



# 新しいUIの時代へ

世界のどこでも  
だれにとっても  
シンプルで、直感的で  
分かりやすく、楽しく  
いつもつながっている



# Simple, Natural, Intuitive.

## Fun & Connected



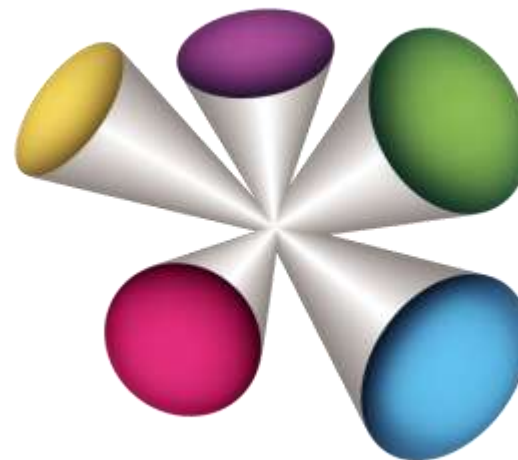
Open up.  
Sense more.





# 本資料のお取扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより変動する事があります。従いまして、実際の業績などが本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。



株式会社ワコム 経営企画部 IRグループ  
TEL : 03-5309-1525 FAX : 03-5309-1503  
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2  
ハーモニータワー21階